

尻手黒川線第4期工事は2025年完成予定で着実に進んでいます

尻手黒川線は川崎市のラダー(はしご)型交通体系の主軸で、片平地区は最終工区です。昨年早期開通を求める請願が審査されて、その時に出された「道路整備プログラムの資料によると今年(2021年)度から工事が始まるとされていました。

これまで、特に麻生区内の工区は、沿線住民の大きな反対運動をうけ川崎市では初めてとなる都市計画道路への防音壁設置による決着を迎えたことなど、完成時期の遅れを余儀なくされてきた歴史の中、整備が進んできました。

用地買収が難航、8年も完成時期が伸ばされた

今年9月のまちづくり分科会で、世田谷通りから上麻生蓮光寺線を結ぶ「尻手黒川線第4期工事」について、市に具体的な工事予定、改めて最終工区の間で示された開通見込み時期の変遷と遅れた原因について聞いています。

片平地区は区画整理事業が進み、黒川までの道路整備が終わっています。こ

の第4工区は、2009年度に事業認可を取得し、当初は2017年完成予定でしたが、用地交渉に時間がかかり、大幅に遅れていました。2017年3月に策定した「第2次川崎市道路整備プログラム」で完成予定を8年延長し2025年としています。

世田谷通りと上麻生蓮光寺線を結ぶトンネル部分の用地も99%取得済み

用地取得率は約99%となり、現道拡幅区間において作業スペースや歩行空間確保のため、今年度、片平川より道路を切り廻す工事に着手しています。また、山側に擁壁を造る工事契約に向けた手続きも進んでいます。

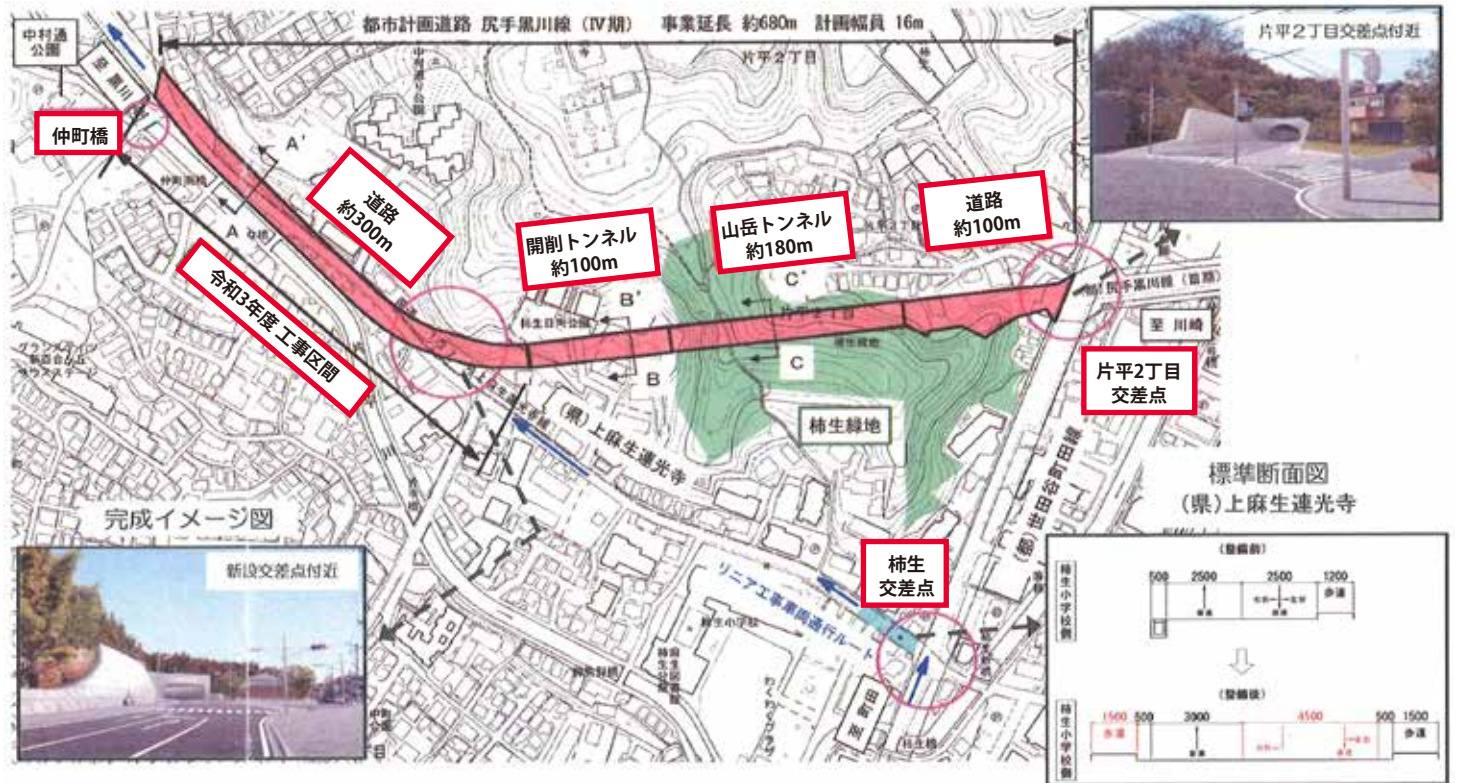
来年(2022年)度は、トンネル区間のうち、柿生緑地側の擁壁築造工事に着手。2023年度以降にトンネルおよび道路築造工事などを予定している、と説明しています。2025年の完成に向けて工事が進んでいて、尻手黒川線は川崎を縦に結ぶ幹線道路として、ようやく完成が見えてきたところです。



片平2丁目交差点付近(現況)



工事が進む新設交差点付近(現況)



郵便はがき

215-8790

料金受取人払

麻生局承認

1020

差出有効期間
2023年3月
10日まで

(受取人)
川崎市麻生区高石
3-27-4

あまがさ裕治

事務所行

住宅地の景観を守るために

新百合丘駅周辺都市景観形成地区

都市景観大賞は、全国の都市景観に対するさまざまな取り組み事例から特に優れたものを大臣が表彰する制度で、1998年度に当該地区が「都市景観100選」に選ばれました。

新百合山手景観形成地区

2005年に川崎市が都市景観形成地区に指定。土地区画整理事業完了後から街全体の維持管理を図るため、「新百合山手街管理組合」「新百合山手景観形成協議会」「新百合山手公園管理運営協議会」の3つの組織が、里山の自然環境を生かした都市景観形成・保全に尽力してきました。2019年、「都市景観大賞 都市空間部門特別賞」受賞しています。

山口台自治会

都市景観形成地区と連なり、山口台自治会があります。新百合ヶ丘駅周辺の良好な住宅地としてのイメージは、この3地区が醸成させたといっても過言ではありません。開発の時系列をたどればこれら3地区のまちづくりは相互に影響を及ぼし作用してきました。

時間の経過とともに景観形成地区や区画整理によって作られた住宅街の管理も老朽

化を迎えてきています。特にこれまで管理の中心主体であったデベロッパーが撤退し、管理組合が解散した後の管理のあり方に新たな課題が発生しています。

山口台は白タイルを所々に配置した区域内道路の美観が「麻生八景」にも選ばれています。通常、行政の維持補修では白タイルを使用した補修は難しいとされていますが、例えば自治会内の緑生整備のために単年度ごとに独自に積み立てを行っている自治会の環境保全費は、本来行政が行うべき公的な緑生の管理にまで使われていますので、これらの原資の配分を見直すことで、標準行政サービス以上とされている白タイルによる補修を実現できないかと議会で質問。市と自治会での話し合いを続けていただいています。



タイルがかけた後、アスファルトで補修されている箇所



あなたのご意見をお寄せください

お名前	住所・電話
ふりがな	川崎市
TEL	()